

施策評価管理シート

2019(令和元)年6月作成

施策体系	政策	2	美しい自然に包まれ 快適に暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	4	魅力的な都市環境づくり		
	施策	3	交通計画		
				都市整備部	谷本 浩司

1. 計画策定当初(H28)の状況と課題

Plan

○ 近年の公共投資の減退に起因する道路整備効果発現の遅れや、高齢化や核家族化の進行に起因する高齢者等の移動の制約、公共交通利用者の減少に起因してサービス水準が低下するといった負の循環など、交通に関わる課題の顕在化が懸念されています。
○ 安全・安心な交通環境の創出に向けては、歩行者・自転車通行空間の整備不足などによる交通安全上の課題や、大規模災害時における緊急輸送や避難など安全な交通機能の確保が課題となっています。

2. 施策の基本方針

Plan

○ 人と環境にやさしい持続可能な集約連携型都市の構築を目指し、自動車交通を円滑に処理する視点での道路整備だけではなく、公共交通による移動の利便性を確保するとともに、安全・安心な交通環境を創出し、鉄道、バス、自動車、自転車、徒歩など交通移動手段の適切な組合せによる交通体系の構築に向け、多様な主体の協働による交通まちづくりに取り組みます。

○施策指標(目標)及び達成状況

Plan Do

施策指標(目標)の内容 (単位)		現状値(H26)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	達成率
公共交通など市内の交通環境に満足している市民の割合 (%)	目標	-	-	-	39.6	
	成果	37.6	36.1	36.4	37.3	0.0%
コミュニティバス「ナッキー号」の1日平均乗降客数 (人)	目標	-	-	-	182	
	成果	173	167	173	178	55.6%

3. 課題解決への取組内容及び成果(平成28年度～30年度)

Plan Do

・市民、交通事業者、行政等から構成する名張市地域公共交通会議において、平成28年度に策定した「名張市都市総合交通戦略」及び「名張市地域公共交通網形成計画」に基づき、市民の誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの検討を進めるとともに、バスマップの作成や行先時刻表を作成、配布するなど、公共交通利用を促進するための分かりやすい情報提供の取組を進めています。
・平成29年7月にコミュニティバス運行協議会、運行事業者、行政等からなる「名張市地域公共交通連携協議会」を設立し、各路線相互の乗継時刻調整や乗継割引等の利用者目線に立った検討を行うとともに、乗込み調査を通じて利用状況や利用者満足度等を把握することにより、各路線の運行の評価を行い、見直し・改善へとつなげていく取組を実施しています。
・過度な自動車利用から公共交通を利用する生活への転換を促すため、バスの乗り方教室の開催や各種イベントへのバス車両の展示やお絵かきバスの実施などを通じて、バスを市民の身近なものとする取組を実施しました。
・各コミュニティバスとも障害者の利用割合が年々増加しており、障害者の方々にとって欠くことのできない移動手段となっていることから、各コミュニティバスとも障害者に対して運賃免除を行っています。運賃免除による経営上の負担を軽減するため、運賃免除による減収分の半額を市が補助を実施しています。

4. 成果を踏まえた課題や現状

Check

高齢化や人口減少に伴い多くのコミュニティバス路線では利用者が減少しており、それに伴って運賃収入が減少するため、減便や運賃値上げをせざるを得ない等、安定した運行の継続に支障をきたし始めている路線もあります。
一方でバスを利用いただいている方にとっては重要な移動手段であり、また、高齢化等に伴い運転免許証を返納する方が大幅に増えている現状を鑑みると、鉄道をはじめとして路線バス、コミュニティバス、タクシーなど様々なモードが一体となった誰もが利用しやすい公共交通ネットワークを構築するとともに、利用者目線に立った分かりやすい情報の提供に取り組んでいく必要があります。
市街地循環型コミュニティバス「ナッキー号」にあつては、車両の老朽化により故障の発生、乗り心地が悪化しており、また、利用者の増加により満員乗車となる運行区間も発生しており、車両の更新を検討する必要があります。

5. 課題解決への取組内容(令和元年度)

Action

利用者目線に立ったわかりやすい情報の提供に努め、主要バス停への行先時刻表の設置など、新規利用者の獲得、また、利用者の利便性を高めるための取組を引き続き実施します。
また、バス乗込み調査等を通じて利用者の利用実態、バスに対する満足度、要望などを把握することにより、ナッキー号をはじめとして、各コミュニティバスの評価を行い、各路線の見直し、改善につなげていくとともに、乗継拠点における乗継時刻調整や乗継割引、総合掲示板による情報提供など、ネットワーク全体としての機能を高めるための検討を進めます。
「バスの乗り方教室」などの公共交通の利用促進を図るための取組について、昨年度に引き続き実施していきます。

6. 行政評価委員会による総合評価

Check

高齢化が進行し、移動手段の確保が重要な課題であることから、路線バスやコミュニティバスの相互連携強化や多様な移動手段の確保について検討を進めること。